



2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月9日

上場会社名 株式会社トランスジェニック
 コード番号 2342 URL <http://www.transgenic.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福永 健司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理財務部長 (氏名) 渡部 一夫

TEL 092-288-8470

四半期報告書提出予定日 2019年8月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	2,351	12.3	48		59		85	
2019年3月期第1四半期	2,093	516.4	0		12		16	

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 81百万円 (%) 2019年3月期第1四半期 113百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	4.95	
2019年3月期第1四半期	0.97	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	7,271	4,809	66.1	276.72
2019年3月期	6,475	4,886	75.4	281.32

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 4,806百万円 2019年3月期 4,882百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,850	13.6	350	29.6	290	13.1	205	1.4	11.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	17,369,141 株	2019年3月期	17,358,141 株
期末自己株式数	2020年3月期1Q	1,421 株	2019年3月期	1,421 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	17,367,709 株	2019年3月期1Q	16,691,541 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績見通しのご利用に当たっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、当社は、当連結会計期間に、新株予約権の行使により、新たに普通株式11,000株を発行しており、業績予想の「1株当たり当期純利益」は当該株式を含めて算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(企業結合等関係)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資を中心とした内需が底堅く推移し、緩やかな回復基調を維持しました。

当社グループが属するバイオ関連業界におきましては、大手製薬企業の中には成長の鈍化の中で事業の整理や人員の削減を図る企業もある反面、ベンチャー企業などにおいては新製品の研究・開発の動きが活発化しました。このような環境の中で、当社グループは次のような活動を行いました。

CRO^{*1}事業においては、既存顧客との取引を拡大・深化させるとともに新規顧客の開拓に注力し、受注強化に努めました。特に、株式会社安評センターでは大型動物飼育管理施設の修繕・整備を完了して受注体制を整え、従来の中・小型動物に加え大型動物の非臨床試験の新規受注に注力いたしました。また、株式会社ボナックとは、非臨床試験の受託拡大を目的として、同社が研究開発している核酸医薬品パイプラインの拡充及び実用化のために当社グループの研究施設・実験機器、研究員の活用を提供する包括的な業務提携を行いました。なお、当第1四半期連結累計期間におけるCRO事業の受注高は529,215千円（前年同期比7.6%増）と増加いたしました。

診断解析事業においては、一層の品質向上及び事業効率化に取り組むとともに、コンパニオン診断^{*2}システムを用いた検査サービス体制を整えるなど、遺伝子解析技術及び豊富な病理診断技術を活かしたサービスの拡充に取り組みました。また、網羅的がんクリニカルシーケンス^{*3}サービスの採用医療機関の確保に努め、さらには、子宮頸がんの早期発見に貢献すべく、子宮頸がんリスク検査である自己採取HPV^{*4}検査の有用性の啓蒙活動及び営業活動に注力するとともに子宮頸がん検診の普及に取り組む地方自治体との検査委受託契約締結を推進いたしました。

TGBS事業においては、Eコマース事業において売れ筋商品の仕入れに努めるとともに、プラットフォーム（大手通販サイト）経由の販路拡大に注力いたしました。また、Eコマース事業以外では、事業承継コンサルティング業務の取り組みを強化いたしました。さらに、2019年4月1日に連結子会社である株式会社TGビジネスサービスが、複層ガラス用副資材やガラス加工機器等の輸入販売を展開する株式会社TGMの全株式を取得し子会社化いたしました。同社の主力製品である複層ガラス用副資材は、省エネ対策市場の需要を取り込むことが期待でき、また、同社が当社グループに加入することで、グループ内の貿易商社機能の拡充が見込めると考えております。

*1	CRO	: Contract Research Organization(医薬品開発業務受託機関)
*2	コンパニオン診断	: 分子標的薬が、投薬対象者に有効かどうかを投与前に予測するために、標的分子の発現量や関連遺伝子変異、遺伝子多型などのバイオマーカーを検査し診断すること
*3	クリニカルシーケンス	: 次世代シーケンサー（DNAを構成する塩基の配列を高速で読み取り、ゲノム情報を解読する装置）を用いて、がん細胞の遺伝子変異を網羅的に解析し、診断や治療の参考となる知見を得るための解析手法
*4	HPV	: Human papillomavirus(ヒトパピローマウイルス)

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、当第1四半期連結会計期間より連結グループに加入した株式会社TGMの売上（TGBS事業のうち「その他」）が寄与し、2,351,605千円（前年同期比12.3%増）と前年同期比で増収となりました。しかし、営業利益につきましては、TGMの利益が大きく寄与したものの、CRO事業において、比較的利益率の低い試験の売上が集中したことや、株式会社安評センターにおいて設備及び人材に対する先行投資を進めたことで固定費が増加したことから、48,498千円の赤字（前年同期は566千円の営業利益）となりました。なお、経常利益につきましても、同様に、59,530千円の赤字（前年同期は12,242千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても85,930千円の赤字（前年同期は16,231千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、当社グループの売上高は、TGBS事業を除き季節的変動が著しく、下半期（特に第4四半期）に売上高が集中する傾向にあります。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。各セグメントの業績数値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

セグメント	売上高			営業損益		
	金額 (千円)	前年同期比		金額 (千円)	前年同期比	
		増減額 (千円)	増減率 (%)		増減額 (千円)	増減率 (%)
C R O 事業	337,086	20,447	6.5	△29,853	△51,416	—
診断解析事業	166,445	△14,819	△8.2	△16,588	△14,765	—
T G B S 事業	1,851,393	248,993	15.5	49,011	25,753	110.7
(Eコマース)	(1,260,304)	(△258,060)	△17.0	(7,002)	(△13,791)	△66.3
(その他)	(591,089)	(507,054)	603.4	(42,009)	(39,545)	1,605.3

(注) 括弧内の金額は、TGBS事業の各内訳金額であります。

① CRO事業

当事業では、医薬品・食品の臨床試験受託及び薬効薬理試験、安全性薬理試験、薬物動態試験、農薬・食品関連物質などの安全性試験などの非臨床試験受託を行っております。また、遺伝子改変マウスの作製受託、モデルマウスの販売や作製モデルマウスを用いた非臨床試験の受託、抗体作製受託、及び新規バイオマーカーの開発などを行っております。当第1四半期連結累計期間の経営成績は、受注高の増加により売上高は前年同期比で増収（前年同期比6.5%増）となりましたが、比較的利益率の低い試験の売上が集中したことや、株式会社安評センターにおいて設備及び人材に対する先行投資を進めたことで固定費が増加したことから、営業損益につきましては損失となりました。

② 診断解析事業

当事業では、病理専門医による豊富な診断実績及び最新のバイオマーカー解析技術を生かした高品質な病理診断サービス、遺伝子解析受託サービス及び個別化医療に向けた創薬支援サービスを行っております。当第1四半期連結累計期間の経営成績は、病理診断の検体数は増加したものの、遺伝子解析受託サービス等の伸び悩みにより、売上高は前年同期比で減収（前年同期比8.2%減）となり、営業損益につきましても損失となりました。

③ TGBS事業

当事業は、株式会社TGビジネスサービスによる事業であり、M&Aによる新規事業の推進と幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援サービスを行っております。当第1四半期連結累計期間の経営成績は、Eコマース事業の売上が伸び悩んだものの、当第1四半期連結会計期間より連結グループに加入した株式会社TGMの売上が寄与し、売上高は前年同期比で増収（前年同期比15.5%増）、営業損益につきましても49,011千円の黒字を計上いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は3,522,223千円となり、前連結会計年度末に比べ619,266千円増加いたしました。これは主に、仕掛品が184,326千円増加した一方で受取手形及び売掛金が112,884千円減少したほか、主として株式会社TGMの連結子会社化により現金及び預金が97,790千円、商品及び製品が161,069千円、その他流動資産が299,001千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は3,749,737千円となり、前連結会計年度末に比べ177,416千円増加いたしました。これは主に、無形固定資産が119,494千円増加したことによるものであり、主として株式会社TGMの連結子会社化に伴い、のれんが116,775千円増加しております。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,909,351千円となり、前連結会計年度末に比べ777,413千円増加いたしました。これは主に、株式会社TGMの連結子会社化により、短期借入金が200,000千円、前受金が469,576千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定負債は552,738千円となり前連結会計年度末に比べ96,144千円増加いたしました。これは主に、未払金への振替による長期未払金が50,305千円減少したほか、株式会社TGMの連結子会社化に伴い長期借入金が143,784千円増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は4,809,869千円となり、前連結会計年度末に比べ76,875千円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失を85,930千円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の売上高は2,351,605千円(2020年3月期通期の連結業績予想売上高の23.9%)と順調に推移しております。また、当社グループのCRO事業及び診断解析事業セグメントの売上高については季節的変動が著しく、下半期(特に第4四半期)に売上が集中する傾向にあります。

このため、現時点におきましては2019年5月10日に公表いたしました2020年3月期通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,277,521	1,375,312
受取手形及び売掛金	694,171	581,286
商品及び製品	247,121	408,191
仕掛品	343,799	528,126
原材料及び貯蔵品	70,358	60,195
その他	270,743	569,744
貸倒引当金	△759	△633
流動資産合計	2,902,957	3,522,223
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,547,090	1,584,770
減価償却累計額	△448,779	△463,237
建物及び構築物(純額)	1,098,311	1,121,532
土地	812,230	812,230
その他	784,095	806,392
減価償却累計額	△532,929	△551,769
その他(純額)	251,166	254,623
有形固定資産合計	2,161,707	2,188,386
無形固定資産		
のれん	484,776	601,551
その他	12,819	15,537
無形固定資産合計	497,595	617,089
投資その他の資産		
投資有価証券	565,446	556,865
その他	350,071	393,907
貸倒引当金	△2,500	△6,512
投資その他の資産合計	913,017	944,260
固定資産合計	3,572,320	3,749,737
資産合計	6,475,278	7,271,960

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	53,045	180,492
未払金	408,252	324,299
前受金	247,605	717,181
短期借入金	130,000	330,000
1年内償還予定の社債	12,000	12,000
1年内返済予定の長期借入金	101,919	121,551
未払法人税等	82,318	75,344
賞与引当金	8,031	20,974
受注損失引当金	—	269
その他	88,766	127,238
流動負債合計	1,131,938	1,909,351
固定負債		
社債	12,000	12,000
長期借入金	289,523	433,307
長期末払金	115,610	65,305
退職給付に係る負債	24,463	25,199
その他	14,997	16,926
固定負債合計	456,594	552,738
負債合計	1,588,532	2,462,090
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,481,772	3,484,241
資本剰余金	1,229,718	1,232,188
利益剰余金	235,608	149,677
自己株式	△1,725	△1,725
株主資本合計	4,945,373	4,864,382
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△59,697	△57,189
為替換算調整勘定	△2,844	△1,183
その他の包括利益累計額合計	△62,542	△58,372
新株予約権	3,914	3,859
純資産合計	4,886,745	4,809,869
負債純資産合計	6,475,278	7,271,960

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	2,093,721	2,351,605
売上原価	1,785,808	2,008,698
売上総利益	307,913	342,907
販売費及び一般管理費	307,346	391,406
営業利益又は営業損失(△)	566	△48,498
営業外収益		
受取利息	1,160	1,155
保険解約返戻金	—	37,497
その他	914	1,190
営業外収益合計	2,074	39,844
営業外費用		
支払利息	2,156	5,234
持分法による投資損失	7,480	8,093
買収関連費用	—	34,944
その他	5,247	2,602
営業外費用合計	14,883	50,875
経常損失(△)	△12,242	△59,530
特別損失		
固定資産除却損	—	7,962
特別損失合計	—	7,962
税金等調整前四半期純損失(△)	△12,242	△67,492
法人税、住民税及び事業税	2,130	18,807
法人税等調整額	1,858	△369
法人税等合計	3,988	18,438
四半期純損失(△)	△16,231	△85,930
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△16,231	△85,930

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純損失(△)	△16,231	△85,930
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△93,671	2,508
為替換算調整勘定	△3,177	1,661
その他の包括利益合計	△96,848	4,170
四半期包括利益	△113,080	△81,760
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△113,080	△81,760
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	CRO事業	診断解析事業	TGBS事業					
			Eコマース	その他	小計			
売上高								
外部顧客への売上高	315,109	176,211	1,518,365	84,035	1,602,400	2,093,721	—	2,093,721
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,530	5,053	—	—	—	6,583	△6,583	—
計	316,639	181,265	1,518,365	84,035	1,602,400	2,100,304	△6,583	2,093,721
セグメント利益又は 損失(△)	21,563	△1,823	20,794	2,463	23,257	42,997	△42,431	566

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△42,431千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	CRO事業	診断解析事業	TGBS事業					
			Eコマース	その他	小計			
売上高								
外部顧客への売上高	334,423	165,787	1,260,304	591,089	1,851,393	2,351,605	—	2,351,605
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,662	658	—	—	—	3,320	△3,320	—
計	337,086	166,445	1,260,304	591,089	1,851,393	2,354,926	△3,320	2,351,605
セグメント利益又は 損失(△)	△29,853	△16,588	7,002	42,009	49,011	2,569	△51,068	△48,498

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△51,068千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度の末日に比べ、「TGBS事業」のセグメント資産が著しく増加しております。この主な要因は、株式会社TGMの連結子会社化に伴う企業結合により受け入れた資産1,011,959千円であります。

3 報告セグメントごとの変更等に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社TGビジネスサービスが、株式会社TGMの株式を取得したことにより、同社を連結子会社とし、報告セグメント「TGBS事業」へ含めております。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社株式会社TGビジネスサービスが、株式会社TGMの株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、「TGBS事業」のセグメントにおいて、のれん134,481千円が発生しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社TGM
 事業の内容 エコガラス(複層ガラス)用副資材(スペーサー&シーリング材)の輸入販売
 板ガラス加工設備の販売とメンテナンス

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループは創薬支援企業として創薬の研究開発の各ステージに有用なツール及びサービスを提供しており、これら既存事業の積極的な収益拡大に向けた施策を進めるとともに、バイオ関連事業体のM&Aを積極的に推進しております。しかしながら、当社が属するバイオ業界においては研究開発費の予算縮小傾向が継続する一方で、優位性の高いサービスを提供するための研究開発の実施、先端技術及び高額機器の導入や受注拡大に備えた設備投資といった先行投資が継続的に発生いたします。

このような事業環境の中で、当社グループが競合他社との競争優位性を確保するには、グループ収益の安定性の確保を通じた継続的な投資体力を維持することが重要な経営課題であると考えております。このため、バイオ業界の事業環境に影響されない収益の多様化の実現を目的として、当社子会社である株式会社TGビジネスサービスにおいて幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援サービス、並びにM&Aを機動的に推進しております。

株式会社TGMは、国内大手ガラスメーカーを主要販売先としてエコガラス(複層ガラス)用副資材(スペーサー&シーリング材)、ガラス加工機器等の輸入販売を展開する貿易商社であります。株式会社TGMの主力製品である複層ガラス用副資材は、省エネ対策市場の需要を取り込むことが期待され、また、株式会社TGMが当社グループに加入することで、グループ内の貿易商社機能の拡充が見込めると考えております。

以上のことから、当M&Aが、株式会社TGビジネスサービスを通じて収益源の多様化を図る当社グループの方針に沿うものであるとともに、当社グループの業績拡大に資すると判断し、本株式を取得することといたしました。

(3) 企業結合日

2019年4月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得(間接取得)

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

株式取得直前に所有していた議決権比率 0%
 企業結合日に取得した議決権比率 100%
 取得後の議決権比率 100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社である株式会社TGビジネスサービスが、現金を対価として株式を取得したため、株式会社TGビジネスサービスが取得企業に該当いたします。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2019年4月1日から2019年6月30日までの業績が含まれております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	327,000千円
取得原価		327,000千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 34,944千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

134,481千円

(2) 発生原因

被取得企業の今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

- (3)償却方法及び償却期間
10年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	953,768千円
固定資産	58,190千円
資産合計	1,011,959千円
流動負債	635,113千円
固定負債	184,327千円
負債合計	819,440千円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。